



八幡西区

子どもの挑戦と暮らしの安心を支える

- 折尾西市民センター
- 陣山市民センター



市民センターにおける生涯学習事業

区	八幡西区	センター名	折尾西市民センター
---	------	-------	-----------

事業・活動名

子ども企画フェスタ

事業・活動の背景とねらい・目的

核家族化の進行により、子ども同士が対面で遊び、交流する機会が減少している。また、保護者が子どもの失敗を避けようと先回りする「守りの子育て」になりやすく、子どもが自ら考え、選択する経験が不足しがちである。

一方で、中学生・高校生へと進学するにつれ、主体的に判断し、マネジメントする力が求められる時代となっている。今年度の6年生は、コロナ禍により入学式が実施できなかった学年でもある。小学校最後の年に、一人ひとりの個性を生かし、多様性を尊重しながら協力して一つの事業をつくり上げる経験を通して、今後の人生の選択に自信を持てるようになることを目的とした。

取組内容

折尾西小学校の協力を得て、8月上旬に実行委員募集のお知らせを配布したところ、23人の応募があった。夏休み期間中に2回の実行委員会を開催し、ここでフェスタの概要と各コーナーの担当を決定した。

学期中は全員が集まることが難しかったが、放課後に数回センターで開催。あとは子ども達自身が担当ごとに連絡を取り合い、休み時間や放課後、グループLINEを活用しながら企画内容を固めていった。企画や準備、運営方法もできる限り子ども主体とし、館長・職員は予算の考え方、PTA・地域団体への協力依頼、衛生管理などについて助言を行った。

フェスタの内容は以下のとおり。

日時：3月8日(日)10:00~15:00

会場：折尾西市民センター

内容：

- ①空くじなしのガラポン抽選会（高校生以下）
- ②フットサル&ミニゲーム
午前…ボルクバレット北九州の選手とコーチによるフットサル体験
午後…ボッチャ、キャッチング・ザ・スティックの体験
- ③駄菓子くじ（手作り）
- ④お菓子作り…クッキー作りの体験と製作販売
- ⑤水引き&髪飾り作り体験と製作販売
- ⑥おばけやしき（手作り）
- ⑦ラッキーカラー診断
- ⑧ワンポイントフェイスペイント
- ⑨あなただけの花を咲かせるアート体験

※⑦～⑨は、市民センターを通して外部講師を依頼した。

また、実行委員以外の子どもも関わられるよう、小学校に協力を依頼し、来場者全員に配布する「ありがとうのしおり」1,000枚を6年生全員で作成してもらった。

成果・効果

子どもたちが協力して大きなイベントを成功させたことで、チームとしての連帯感が育まれた。学校生活で馴染みにくさを感じていた子どもも、アナウンスでユーモアを発揮するなど、自身の個性が評価される経験を得ることができた。

また、市民センターが「自分たちのやりたいことを実現できる場」であり、館長や職員がその実現を支える存在であることを実感してもらえた。

フェスタの収益については、子どもたちとの話し合いにより社会福祉協議会へ寄付することとなった。寄付金は小学1年生に配布するランドセルカバー等に活用され、地域の子育て支援やまちづくりにも貢献することを学ぶ結果となった。

今後の取組

子ども主体の企画として、子どもたちのアイデアを大人が単に実現するのではなく、市民センター全体を使った大規模なイベントを実施するためには、必要な資金をどのように確保するか、PTAやまちづくり協議会などの地域団体にどのように協力を求めるかといった基盤的な部分についても、子どもたちに理解してもらいたいという思いがあった。しかし、初年度であったこともあり、センター側も手探りの状況であった。

また、PTAなどの地域団体は年間計画に基づいて活動しているため、年度途中で協力を依頼することが難しいという課題もあった。そこで、令和8年度は、連携先との調整に十分な時間を確保できるよう、年度初めに実行委員の募集を行う予定である。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

地域の子どもたちは、中学・高校・大学と進学するにつれ、大きな組織の中で自ら考え、選択する力が求められるようになる。本事業を、子どもがマネジメント力を育む場として、毎年の恒例行事へと発展させ、持続可能な取り組みにしていきたいと考えている。

そのため、まちづくり協議会と協議し、令和8年度からは地域交流部会の事業として位置付けることとなった。

人生の宝物に なった1日♡ 子ども企画フェスタ in折尾西市民センター 3月8日(日)

折尾西小学校実行委員 23 名企画・準備・運営を行ったフェスタ。

当日は約 3000 人の方の笑顔がセンターにあふれました。

第 1 回目顔合わせ・企画会議

当日までの放課後準備～前日まで

6 年生の皆様へ
～子ども企画フェスタ～
実行委員会会員募集

折尾西小学校でも楽しいお婆ちゃんフェスタを開催します。
自分達の考えを伝えたい。マラソン、駅伝、競輪、競艇などいろいろなことを楽しみながら、地域社会に貢献したい。応募をお待ちしています。

申込先：折尾西市民センター
申込先：折尾西市民センター
申込先：折尾西市民センター
申込先：折尾西市民センター

このチラシから集まってくれた
23 人の実行委員♡

定期的な企画会議の中でやりたいことや
作業日程等を決めていきました。
お婆ちゃんやおかし作りなどなど
やりたいことをみんなで出し合いました。



どんなお化け屋敷にしようかな？
みんなでアイデアを出し合って。

クッキー作り準備

くし引き準備

♡フェスタ当日♡

BORK bullet kitakyuushu のコーチ・選手と★



お婆ちゃんからハッちゃん
お婆ちゃんからハッちゃん

体験コーナー(クッキー)

キッチンカーも♪

先生方も遊びに
岸川先生・安部先生・
滝野先生・下重先生・
鈴木先生ご来館
ありがとう
ございました♡



皆様
ご来館
ありがとうございました♡

他にもお絵描き・
フェイスペイント・
カラー診断...

6 年生全員で作ってくれたしおり♡
どれも可愛くてお気に入りの 1 枚を
一生懸命選んでました！

6 年生実行委員のみなさん・まちづくり協議会・地域交流部会
株式会社梅見設備設計事務所さま・宮崎組さま
本当にありがとうございました★



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

館長と職員が、区の館長・職員・コーディネーター合同研修「社会教育・生涯学習における企画の方法を学ぶ」を受講し、これまでの課題意識を企画として具体化したことが、本事業の実現につながった。

作成者

八幡西区役所コミュニティ支援課 地域・人づくりアドバイザー 小野田 美律

市民センターにおける生涯学習事業

区	八幡西区	センター名	陣山市民センター
---	------	-------	----------

事業・活動名

あじさい塾スマホ編（人権市民講座として「スマホの危機管理講座」）

事業・活動の背景とねらい・目的

近年、核家族化の進行や地域コミュニティのつながりの希薄化により、身近に相談できる相手を持たず、孤立を感じる住民が増えている。地域の課題を解決していくためには、住民一人ひとりが自身の視点や経験を活かし、互いに支え合える関係づくりが重要である。

市民センターでは、来館者からスマートフォン操作に関する相談を受ける機会が多い。家族には聞きづらい、一般的なスマホ教室では自分の端末を使えず理解が深まらないなど、現場で見えてきた困りごとが本講座の背景となっている。

そこで、市民センターならではの身近さと柔軟さを活かし、受講者一人ひとりの小さな疑問や不安に丁寧に寄り添うスマホ講座を実施した。高齢者が取り残されることなく、安心してスマートフォンを活用できるよう支援することを目的とする。また、受講者同士のつながりを生み、センターへ気軽に立ち寄れる環境づくりにもつなげていくものである。

取組内容

前半 1 時間は「スマホの危機管理講座」を実施した。受講生の習熟度に応じ、毎回 1 つのテーマに絞って取り上げ、必要に応じて同じ内容を繰り返し学べる構成とした。また、講座の一部は人権市民講座として位置づけ、スマートフォン利用に伴う危機管理の意識向上にもつなげた。

後半 30 分は、受講生一人につき 1 つの質問を受け付ける個別相談の時間とした。受講生の小さな疑問に丁寧に対応することで、日常生活での困りごとの解消に寄与している。

「とにかくつながる・センターに人が来る」ことをキーワードに、受講生のニーズを踏まえながら運営方法を柔軟に調整した。特に後半の個別相談については、この時間のみの参加も可能とし、参加のハードルを下げる工夫を行った。

本講座は、7 月 7 日から 2 月 24 日までの間に不定期で全 15 回開催し、対象を壮年層および高齢者とした。主な内容は以下のとおりである。

- ・ スマホの危機管理講座
- ・ 詐欺などスマホ被害の防止
- ・ LINE の使い方（1～5）
- ・ インターネットアプリの基礎
- ・ スマホでつながる心と権利のバリアフリー（人権市民講座）
- ・ QR コードの利用方法

成果・効果

初回の講座では、担当職員が日頃の業務で感じていた課題を踏まえ、「スマホの危機管理」をテーマとして取り上げた。その後は、受講生から直接困りごとやニーズを聞き取り、講座内容に反映させるようにした結果、スマートフォン操作への不安が軽減し、自ら操作しようとする意欲が高まった。

また、個別相談の時間を設けたことで、受講生が抱える小さな疑問をその場で解消できること、自身のスマートフォンを使って学ぶため、学んだ内容をすぐに実践できることもあって、習熟度が着実に深まっている。知人を誘って参加する人や継続して受講する人が多いことから、講座への満足度の高さがうかがえる。

さらに、受講生同士が自然に教え合ったり、他の人の理解が進むまで待ち合ったりする姿が見られるようになり、横のつながりが形成されている。講座が単なる学びの場にとどまらず、交流の場としても機能し、地域における孤立防止にもつながっている。

今後の取組

受講生からは、講座の継続を望む声や、学習内容に関する具体的な要望が寄せられている。こうした状況を踏まえ、令和 8 年度は 5 月の開講を目指して企画を進めているところである。今後も受講生のニーズに寄り添う姿勢を基本としつつ、担当者が日頃の業務で把握している課題を反映させながら、学習内容を発展させていく予定である。

具体的には、高齢者の生活の中で利用機会が増えと考えられるタクシーアプリの使い方をはじめ、地図アプリの見方、ID・パスワードの適切な取り扱いなど、日常生活に直結するテーマを取り上げる計画である。これらの内容を通じて、受講生がより安心してスマートフォンを活用できるよう支援していきたいと考えている。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

当初は受講しやすさを重視し、申込不要の自由参加形式としていた。しかし、開催中止や内容変更時に確実に連絡できる体制を整える必要性が高まったことから、参加申込によって連絡先を把握する方式へと変更した。

申込制への移行によって、偶然ながら新たな気づきがあった。欠席者への連絡を行った際、参加予定者が入院していることを把握する機会があり、申込情報が単なる事務連絡のためだけでなく、福祉的視点や見守りの観点からも活用できる可能性に気づいた。

さらに、担当者自身の介護経験を踏まえ、一人暮らしの高齢者との関係構築の場としてスマホ講座を展開していく意義を改めて認識している。

活動の様子

当日のテーマは見やすいように、大きな文字と絵を用いてホワイトボードに書いて説明。



一人一人に寄り添った、丁寧な対応で質問しやすい環境づくり。



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

担当職員は年度当初、生涯学習推進コーディネーターとして活動しており、区のコーディネーター研修会に参加した際、今年度の抱負として「スマホ講座を実施してみたい」との意向を示していた。その後、館長・職員・コーディネーター合同研修「社会教育・生涯学習における企画の方法を学ぶ」を受講し、企画の目的整理や構成方法について理解を深めた。研修内のワークではスマホ講座の仮企画を作成し、館長から「やってみよう」との承認を得ることができた。これら二つの研修を通じ、講座開催に向けて伴走する形で支援が行われたと言える。

講座開始当初は担当者に不安も見られたが、主事が見学した際には内容を評価し、改善点や強みを具体的にフィードバックしたことが、担当者の自信向上につながった。現在、担当者はセンター職員として新たな視点を持ちながら講座運営を担っており、主事・主事補は必要に応じて相談役として関わり、継続的に支援していく体制を取っている。

作成者

八幡西区役所コミュニティ支援課 地域・人づくり担当補佐 岡田 亜紀